

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Analysis of Variance based on Fuzzy Interval Data Using Moment Correction Method 《筆頭論文》	共著	2006年2月	International Journal of Innovative Computing, Information and Control, Vol2, No.1	論文全体の概要: 分散分析は、実験データの分析など多くの場面で使用される。そして、一元配置を基本に二元配置など多次元データにも対応している。そこで、本研究では一元配置及び二元配置の分散分析におけるファジィ区間データの処理方法を提案し、それぞれコンピュータシミュレーションを用いてその有効性を検討している。 (当該論文のページ数: 17 頁) (当該論文の著者名: <u>Mikihiko Konishi</u> , Tetsuji Okuda and Kiyoji Asai) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (担当ページ: pp.83-99, 共著)
2 (学術論文) 補正法を用いたファジィ区間 データの統計的処理に関する 研究	単著	2007年9月	大阪工業大学学位 論文	論文全体の概要: 人間の主観的なあいまいさを含むファジィ区間データを用い、統計的処理を効率的に行うための処理方法、および様々な分析手法における適用方法をまとめている。 (当該論文のページ数: 116 頁)
3 (報告・発表) DEA を用いるファジィ線形評価 について	共著	2006年3月	第16回ソフトサイエ ンス・ワークショップ	著書全体の概要: ファジィ回帰モデルなどのファジィ係数をもつ線形式は、その計算に拡張原理が用いられる。この場合、ファジィ係数の中心値を通常の係数として持つ線形結合により評価値が出され、通常の線形評価となってしまう。また、評価値がファジィ係数の幅に比例して大きくなりすぎることもある。そこで、DEA の考え方を用いてファジィ係数を持つ線形評価の方法について検討している。 (総ページ数: 4 頁) (著書全体の著者名: 奥田徹示、 <u>小西幹彦</u> 、田中秀治郎) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (担当ページ: pp.96-99, 共著)
4 (報告・発表) ファジィ区間データによる正規 分布モデルの選択における AIC	共著	2010年9月	第26回ファジィシ ステムシンポジウム	著書全体の概要: ファジィ区間データの処理では、補正量を用いてあいまいさによる影響を考慮している。そして、その応用として情報量規準 AIC によりファジィ区間データから統計的なモデルの選択方法も提案している。しかし、提案手法は最尤推定の段階で間接的に補正量を用い、AIC に対して直接補正を行なっていない。そこで、本研究では AIC に対して補正量がどのように影響をしているのかを直接的な計算で明らかにしている。 (総ページ数: 2 頁) (著書全体の著者名: <u>小西幹彦</u> 、奥田徹示) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (担当ページ: pp.367-368, 共著)